

Recording: 5 December 1991, St. Stephen's Cathedral, Vienna [Live Recording]
Recording Producers: Christopher Raeburn, Franz Kabelka & Herbert Chappell
Balance Engineer: John Pellowe

Tower Records Premium Classics Vol.1
Product selection & direction: Susumu Kitamura (Tower Records Japan Inc.)
Artwork design: Kyoko Aiba (asahi edigraphy)
Editors: Yuki Gonda, Maiko Mori, Motoharu Nagase, Kazumi Tamura, Hideaki Yasuda (Universal Music LLC)
Product manager: Kaoru Abe (Universal Music LLC)

タワーレコード・オンライン・クラシックサイトはこちら→<http://tower.jp/classic>

<取り扱い上の注意>●ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズ等を付けないように取り扱って下さい。●ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布で内周から外周に向かって放射状に軽くふき取って下さい。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。●ディスクは両面共、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないで下さい。●ひび割れや変形、又は接着剤等で補修したディスクは、危険ですから絶対に使用しないで下さい。
<保管上の注意>●直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないで下さい。●ディスクは使用後、元のケースに入れて保管して下さい。●プラスチックケースの上に重いものを置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをすることがあります。

DECCA

MOZART

REQUIEM, K626

Recorded live in Vienna to commemorate the 200th anniversary of Mozart's death

SIR GEORG
SOLTI

*Auger
Bartoli
Cole
Pape*

Konzertvereinigung
Wiener
Staatsopernchor

Wiener
Philharmoniker



ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

レクイエム ニ短調 K.626
Requiem in D minor, K.626

モーツァルト没後200年を記念してウィーンのシュテファン大聖堂で行われた典礼ミサのライヴ録音
Recorded live in Vienna to commemorate the 200th anniversary of Mozart's death

ヨーゼフ・アイブラー、ヤコブ・フライシュテットラー、フランツ・クサヴァー・ジュスマイヤー 補筆
Version by Joseph Eybler, Jacob Freistädler & Franz Xaver Süssmayr

H.C.ロビンス・ランドン校訂版

In a new edition by H. C. Robbins Landon

- | | | | |
|--|--------|--|--------|
| [1] I. 入祭唱
I. Introitus | [5:22] | IV. 奉献唱
IV. Offertorium | |
| [2] II. キリエ
II. Kyrie | [2:27] | [9] 主イエス・キリスト、栄光の王
Domine Jesu Christe, Rex gloriae | [3:47] |
| III. セクエンツィア
III. Sequenz | | [10] われらが捧げまつる
Hostias et preces | [3:32] |
| [3] 怒りの日
Dies irae | [1:58] | [11] 聖別祈禱
Gabengebet (Prayer over the Gifts) | [0:49] |
| [4] ラッパは高らかに響きわたる
Tuba mirum | [3:01] | [12] 序誦
Präfation (Preface) | [0:58] |
| [5] 恐るべき威力の王よ
Rex tremendae | [1:55] | [13] V. サンクトゥス
V. Sanctus | [1:27] |
| [6] 思い出したまえ、良きキリストよ
Recordare, Jesu pie | [4:59] | [14] VI. ベネディクトゥス
VI. Benedictus | [4:27] |
| [7] 呪われた人々が入りまじって
Confutatis maledictis | [2:19] | [15] 典文
Hochgebet (Canon) | [4:35] |
| [8] ラクリモーザ(涙の日)
Lacrimosa | [3:13] | [16] 主の祈り
Vaterunser - Ecce Agnus | [2:51] |
| | | [17] VII. アニュス・デイ
VII. Agnus Dei | [2:38] |
| | | [18] VIII. 聖体拝領唱
VIII. Communio | [6:15] |

アーリーン・オジェー (ソプラノ) ([1],[4],[6],[9],[11],[12],[14]-[16],[18])

Arleen Augér, soprano

チェチーリア・バルトリ (メゾ・ソプラノ) ([4],[6],[9],[11],[12],[14]-[16])

Cecilia Bartoli, mezzo-soprano

ヴィンソン・コウル (テノール) ([4],[6],[9],[11],[12],[14]-[16])

Vinson Cole, tenor

ルネ・パーペ (バス) ([4],[6],[9],[11],[12],[14]-[16])

René Pape, bass

ウィーン国立歌劇場合唱連盟 ([1]-[3],[5],[7]-[14],[16]-[18])

Konzertvereinigung Wiener Staatsopernchor

(合唱指揮: ペーター・ブリアン)

(Chorus Master: Peter Burian)

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

Wiener Philharmoniker

指揮: サー・ゲオルグ・ショルティ

Conducted by Sir Georg Solti

録音: 1991年12月5日 ウィーン、シュテファン大聖堂(ライヴ・レコーディング)

レクイエム ニ短調 K.626 (モーツァルト)

西洋音楽史上最大の天才で、「神童」の異名でも知られるヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)。本作はその絶筆となった未完の作品で、ヴェルディ、フォーレとならぶ「3大レクイエム」のひとつに数えられている。

晩年のモーツァルトはウィーンの聴衆の人氣を失い、経済的に苦しい生活を強いられており、1791年の秋頃からは体調も崩しがちだった。そのため、彼は死の世界からの依頼で自らのためにレクイエムを書いているという噂が流布。依頼主が匿名だったこともあり、それが近年までまことしやかに信じられていた。だが1964年、依頼主がフランツ・フォン・ヴァルゼック=シュトゥッパハ伯爵という田舎の領主で、91年7月頃に灰色の服を着た陰気な男性(伯爵の知人フランツ・アントン・ライトゲープ)をモーツァルトへの使者として派遣し、無署名の手紙によって匿名で本作の作曲を依頼したことが判明。ライトゲープは高額な報酬の半額を前払いして帰っていったといわれる。ヴァルゼック伯爵はアマチュアの音楽家で、かねてから当時の有名作曲家に匿名で作品を書かせ、それを自分で写譜した上で自らの名義で発表して

いた。そうした中、91年2月に夭折した彼の妻の追悼のため、モーツァルトに依頼したのが本作だったというのが事の真相だ。

前述の通り、心身共に不調だったモーツァルトは、依頼主不明のレクイエムを注文されたことで、自分の死を悟ったのだろう。9月30日に歌劇《魔笛》の初演を終えると、すぐさま本作の作曲に取りかかったが、11月20日頃には床から離れられなくなってしまう。12月になると病状はさらに悪化し、モーツァルトはふたたび快復することなく、12月5日の未明に他界してしまった。

この間、病床でも本作の作曲は続けられ、12月4日に見舞いに訪れた《魔笛》初演時のパミーナ役ベネディクト・シャックにソプラノ、ザラストロ役のフランツ・ゲルルにバス、義兄でヴァイオリニストのフランツ・ホーファーにテノールを歌って貰い、モーツァルト自身はアルトを担当して、完成部分を歌った。歌い終えると、病床の作曲家は泣きながら譜面を置いたと伝えられる。

この時、本作は〈ラクリモーザ〉の8小節で中断しており、モーツァルトの未亡人コンスタンツェは早急に全曲を完成させることが必要だった。何故なら、生前の夫が既に本作を書き

上げていたことにして依頼主に渡さなければ、報酬の残り半分は支払われず、場合によっては前払い分まで返金を迫られる恐れもあったからだ。

補筆作業に際して、当初はモーツァルトも才能を高く評価していたウィーン宮廷楽長のヨーゼフ・アイブラーが担当したが、途中で放棄。この重責は自分の手に負えるものではないと悟ったのだろう。作業は結局、モーツァルトの弟子フランツ・クサヴァー・ジュスマイヤーに委ねられ、改めて一から補筆を行う形で最終的な完成に漕ぎ着けた。総譜は依頼主に引き渡され、コンスタンツェは報酬の残り半分を得たという。

その後、ヴァルゼック伯爵は自分の作品として、93年12月14日にウィーンのノイクロスター教会で自らの指揮で本作を初演した(ゴットフリート・ヴァン・スヴィーテン男爵の粋な計らいで、コンスタンツェのために93年1月2日に本当の初演が行われたという説もある)が、コンスタンツェは手元に残った写譜から亡夫の作品として出版。このため、後に伯爵が抗議する一幕もあったが、モーツァルトの名声はすでに高まりつつあり、以後、本作は彼の代表作のひとつとして広く認知されるようになった。

そして当盤に関して少々。ここには、モーツァルトの没後200年の命日にあたる1991年12月5日にウィーンのシュテファン大聖堂で行われた典礼ミサの様子が収録されている。巨匠ショルティが指揮するウィーン・フィルの重厚な響きと、悲哀と清澄に溢れた独唱や、真摯で壮麗な合唱がみごとに融合した、メモリアルイヤーにふさわしい一期一会の名演だ。

作品の概要と構成は以下の通り。

I. 入祭唱

(ニ短調/アダージョ/4分の4拍子/合唱&ソプラノ)

II. キリエ

(ニ短調/アレグロ/4分の4拍子/合唱)

III. セクエンツィア:

〈怒りの日〉

(ニ短調/アレグロ・アッサイ/4分の4拍子/合唱)

〈ラッパは高らかに響きわたる〉

(変ロ長調→ヘ短調/アンダンテ/2分の2拍子/四重唱)

〈恐るべき威力の王よ〉

(ト短調/グラーヴェ/4分の4拍子/合唱)

〈思い出したまえ、良きキリストよ〉

(ヘ長調/アンダンテ/4分の3拍子/四重唱)

〈呪われた人々が入りまじって〉

(イ短調/アンダンテ/4分の4拍子/合唱)

〈ラクリモーザ(涙の日)〉

(ニ短調/ラルゲット/8分の12拍子/合唱)

IV. 奉献曲:

〈主イエス・キリスト、栄光の王〉

(ト短調/アンダンテ・コン・モート/4分の4拍子/
合唱&四重唱)

〈われらが捧げまつる〉

(変ホ長調/アンダンテ/4分の3拍子/合唱)

V. サンクトゥス

(ニ長調/アダージョ/4分の4拍子/合唱)

VI. ベネディクトゥス

(変ロ長調/アンダンテ/4分の4拍子/四重唱&
合唱)

VII. アニウス・デイ

(ニ短調/ラルゲット/4分の3拍子/合唱)

VIII. 聖体拝領唱

(ニ短調/アダージョ/4分の4拍子/ソプラノ &
合唱)

演奏者について

アーリーン・オジェー(1939-1993)は、アメリカのソプラノ歌手。繊細で澄み切ったリリッ

ク・ソプラノで、J.S. バッハやヘンデル、モーツァルトなど、古典の大家として知られる。ウィリアム・クリスティら古楽演奏家との共演でも注目を集めた。

チェーチーリア・バルトリ(1966-)は、イタリアのメゾ・ソプラノ歌手。当代最高のオペラ&コンサート歌手の一人で、極めて個性的な声色とドラマティックな表現力を備えている。とりわけモーツァルトとロッシーニの定評が高い。

ヴァインソン・コウル(1950-)は、アメリカのテノール歌手。世界中のオペラハウスで活躍する傍ら、ワシントン大学やニューイングランド音楽院などで後進の育成も積極的に行っている。

ルネ・パーベ(1964-)は、ドイツのバス歌手。ヨーロッパの主要歌劇場やメトロポリタン歌劇場、ベルリン国立歌劇場のツアーなど、世界各国で活躍している。

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団は、1842年創設の世界随一の実績と知名度を誇る名門楽団。ウィーン国立歌劇場の専属オーケストラ、ウィーン国立歌劇場のメンバーによる自主運営団体として活動している。同歌劇場に1927年に創設されたのが、ウィーン国立歌劇場合唱団。

サー・ゲオルグ・ショルティ(1912-1997)

は、ハンガリーに生まれ、後にイギリス国籍で活躍した20世紀後半を代表する指揮者の一人。早くからピアニストとしても才能を発揮した。指揮者としては、シカゴ交響楽団、バイエルン国立歌劇場、ザルツブルク復活祭音楽祭の音楽監督など、さまざまな主要ポストを歴任し、晩年はウィーン・フィルとも多くの名演や名盤を残した。

2014年5月 渡辺謙太郎

モーツァルト:レクイエム K.626 対訳

(歌) 石井 宏 / (語り部分) 長谷川 勝英・訳

① Introitus

Requiem aeternam dona eis, Domine,
et lux perpetua luceat eis.
Te decet hymnus, Deus, in Sion,
et tibi reddetur votum in Jerusalem
Exaudi orationem meam,
ad te omnis caro veniet.
Requiem aeternam dona eis, Domine:
et lux perpetua luceat eis.

② Kyrie

Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

③ Sequenz

Dies irae, dies illa,
Solvat saeculum in favilla,
Teste David cum Sibylla.

Quantus tremor est futurus,
Quando iudex est venturus,
Cuncta stricte discussurus!

④ Tuba, mirum spargens sonum

Per sepulcra regionum,
Coget omnes ante thronum.

Mors stupebit et natura,
Cum resurget creatura,
Judicanti responsura.

① 入祭唱

主よ永遠の安息を彼らに与えたまえ
永遠の光もて彼らを照らしたまえ。
シオンにては主に聖歌を捧げ
エルサレムにては祈りを捧げまつる
われらが願いを聴きたまえ、
すべての肉はみもとに参りまつる
主よ永遠の安息を彼らに与えたまえ、
永遠の光もて彼らを照らしたまえ。

② キリエ

主よ、憐みたまえ
キリストよ、憐みたまえ
主よ、憐みたまえ。

③ セクエンツィア

怒りの日よ、その日
地上は灰に帰する
ダヴィデと聖子の予言のように。

何という恐怖のくることが
審判が至り
ものみな厳しく試される時は。

④ ラッパは高らかに響きわたる
すべての国の墓の上に
すべての人を玉座の前に集め出される。

死者も生者も驚きに打たれる
すべての生物が甦り
審判に答える時には。

Liber scriptus proferetur,
In quo totum continetur,
Unde mundus judicetur.

Judex ergo cum sedebit,
Quidquid latet apparebit:
Nil inultum remanebit.

Quid sum miser tunc dicturus?
Quem patronum rogaturus,
Cum vix justus sit securus?

⑤ Rex tremendae majestatis,
Qui salvandos salvas gratis,
Salva me, fons pietatis.

⑥ Recordare, Jesu pie,
Quod sum causa tuae viae:
Ne me perdas illa die.

Quaerens me, sedisti lassus:
Redemisti crucem passus:
Tantus labor non sit cassus.

Iuste iudex ultionis,
Donum fac remissionis
Ante diem rationis.

Ingemisco, tamquam reus:
Culpa rubet vultus meus:
Supplicantis parce, Deus.

Qui Mariam absolvisti,
Et latronem exaudisti,
Mihi quoque spem dedisti.

Preces meae non sunt dignae:

一つの本が持ち出され
そこにはすべてが書かれてあり、
それに基づいてすべてが裁かれる。

故に審判者が席に着く時
隠されたものはすべて見出しされ、
罪を免れるものはない。

哀れなるわれは、何をかおう、
いかなる保護者に頼むのか、
正義すらが疑われる時に。

⑤ 恐るべき威力の王よ、
償いし者を自由に救いたもう方よ、
憐れみの泉よ、われを救いたまえ。

⑥ 思い出したまえ、良きキリストよ、
われはあなたの来臨の理由であることを
そして、その日、われを見放したもうな。

審判の席に着き、われを探したまえ、
十字架の受難にてわれを贖われしなれば、
そのみわざを無になしたもうな。

正しき、懲罰の審判よ
われに赦免を認めたまえ。
審判の日の前に。

われは罪人のように震える、
赤き印はわが額にあり、
ひれ伏す者をお救いあれ。

マグダラのマリアを赦したまい
盗人の願いを容れられたあなたは、
わが上にも希望を与えられた。

わが祈りとはとるに足らずとも、

Sed tu bonus fac benigne,
Ne perenni cremer igne.

Inter oves locum praesta,
Et ab haedis me sequestra,
Statuens in parte dextra.

- ⑦ Confutatis maledictis,
Flammis acerbis addictis:
Voca me cum benedictis.

Oro supplex et acclinis,
Cor contritum quasi cinis,
Gere curam mei finis.

- ⑧ Lacrimosa dies illa,
Qua resurget ex favilla
Judicandus homo reus.
Huic ergo parce, Deus,
Pie Jesu Domine,
dona eis requiem.
Amen

Offertorium

- ⑨ Domine Jesu Christe, Rex gloriae,
libera animas omnium fidelium
defunctorum
de poenis inferni et de profundo lacu:
libera eas de ore leonis,
ne absorbeat eas tartarus, ne cadant in
obscurum:
Sed signifer sanctus Michael
repraesentet eas in lucem sanctam:
quam olim Abrahae promissisti
et semini ejus.

- ⑩ Hostias et preces tibi, Domine,

あなたの憐憫によって、われを、
永遠の劫火よりお救い下さい。

あなたの羊の群にわれをお加え下さい、
黒山羊よりわれをお分け下さい、
あなたの右の手によって。

- ⑦ 呪われた人々が入りまじって
灼熱の焔にさらされる時は、
われを祝別された者の中にお呼び下さい。

われはひれ伏して祈り、
心は灰のように砕けて
最後の時の平安を願うのみ。

- ⑧ 涙のその日
灰の中から甦り
罪人の裁きにかけられる日。
神よ彼を憐みたまえ、
主なる良きイエス、
彼らに安息を与えたまえ。
アーメン

奉献唱

- ⑨ 主イエス・キリスト、栄光の王、
忠実な死者の魂を、
地獄の火の苦しみと
深淵の底より解き放って下さい。
彼らを獅子の口より解き放して下さい。
深淵に落ちぬよう、暗闇に吞まれぬよう
お守り下さい。
聖ミカエルとその旗のもとに
彼らを聖なる光に導きたまえ
その昔アブラハムとその一族に
お約束下さったように。

- ⑩ われらが捧げまつる、

laudis offerimus:
tu suscipe pro animabus illis,
quarum hodie memoriam facimus:
fac eas, Domine, de morte transire
ad vitam,
quam olim Abrahae promissisti
et semini ejus.

⑪ Gabengebet

K: Betet, Brüder und Schwestern, daß mein
und euer Opfer Gott, dem allmächtigen
Vater, gefalle.
A: Der Herr nehme das Opfer an aus deinen
Händen zum Lob und Ruhm seines
Namens, zum Segen für uns und seine
ganze heilige Kirche.
K: Herr und Gott, nimm die Gebete und
Gaben, die wir für das Heil deines Dieners
Wolfgang Amadeus darbringen, gnädig
an. Schenke ihm die volle Erlösung und
die ewige Freude. Darum bitten wir
durch Christus, unseren Herrn.
A: Amen.

⑫ Präfation

K: Dominus vobiscum.
A: Et cum spiritu tuo.
K: Sursum corda.
A: Habemus ad Dominum.
K: Gratias agamus Domino Deo nostro.
A: Dignum et iustum est.
K: Vere dignum et iustum est, aequum et
salutare, nos tibi semper et ubique
gratias agere: Domine, sancte Pater,
omnipotens aeternae Deus: per Christum
Dominum nostrum: Qui est salus mundi,
vita hominum, resurrectio mortuorum.

この捧げ物と祈りとを、
本日ここに祭りまする
魂のためにお受け下さい。
主よ、彼らに永遠の生を
与えたまえ、
その昔アブラハムとその一族に
お約束下さったように。

⑬ 聖別祈禱

司祭：主にある兄弟姉妹、私たちの供え物が神、
全能なる父に受け入れられますように
お祈りしましょう。
会衆：主がこの供え物を、その御手に受け入れて
下さいますように。神の御名と栄光を讃美します。
私たちとあなたの聖なる教会に
祝福がありますように。
司祭：主なる神、私たちの祈りと供え物を
受け入れて下さい。私たちはあなたの僕、
ヴォルフガング・アマデウスを平和と
幸福において、御前にお捧げいたします。
この祈りを主イエスの御名によって
御前にお捧げいたします。
会衆：アーメン。

⑭ 序詠

司祭：主は皆さんとともに。
会衆：また司祭とともに。
司祭：心をこめて神を仰ぎ。
会衆：心をこめて神を仰ぎます。
司祭：主、私たちの神に感謝を捧げましょう。
会衆：神に感謝し、讃美を捧げますことは、
まことに尊い大切な務めです。
司祭：聖なる父、全能で永遠なる神、
いつ、どこでも主キリストによって、
讃美と感謝を捧げることは、
まことに尊い大切な務めです。
神において世界は救われ、

Per quem maiestatem tuam adorat
exercitus Angelorum, ante conspectum
tuum in aeternitate laetantium. Cum
quibus et nostras voces et admitti
iubeas, deprecamur, socia exultatione
dicentes:

13 Sanctus

Sanctus, Sanctus, Sanctus,
Dominus Deus Sabaoth!
Pleni sunt coeli et terra gloria tua.
Osanna in excelsis.

14 Benedictus

Benedictus qui venit in nomine Domini.
Osanna in excelsis.

15 Hochgebet

K: Vere Sanctus es, Domine, fons omnium
sanctitatis. Haec ergo dona, quaesumus,
Spiritus tui rore sanctifica, ut nobis
Corpus et Sanguis fiant Domini nostri
lesu Christi.
Qui cum Passioni voluntaria traderetur,
accepit panem et gratias agens fregit;
deditque discipulis suis, dicens:
Accipite et manducate ex hoc omnes:
Hoc est enim Corpus meum, quod pro
vobis tradetur.
Simili modo, postquam caenatum est,
accipiens et calicem, iterum gratias agens
dedit discipulis suis, dicens:
Accipite et bibite ex eo omnes:
Hic est enim calix Sanguinis mei novi et
aeterni testamenti,
qui pro vobis et pro multis
effundetur in remissionem

人は創り変えられ、そして死者は蘇ります。
キリストをととして、天の天使たちが、
彼らが永遠にあなたの霊のうちにあることを
喜ぶように、礼拝の祈りを捧げます。
私たちの声が、天使たちの讃美の勝利の讃美歌とともに
ありますように。

13 サンクトゥス

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、
万軍の主なる神は。
天と地はあなたの栄光に満たされる。
いと高きところにホサンナ。

14 ベネディクトゥス

神のみ名においてきたる者に祝福あれ。
いと高きところにホサンナ。

15 典文

司祭：主よ、あなたはまことに神聖で、
すべての神聖なるものの泉です。
あなたの霊でこれらの供え物を
神聖なるものとして下さい。
そしてそれが私たちにとって、われらの主
イエス・キリストの体と血となりますように。
イエス・キリストは渡される前、
進んで死を受け入れ、パンを取り、
感謝を捧げました。イエスはパンを裂き、
使徒たちに与えて、仰せになりました。
「皆、取って食べなさい。
これはあなたがたのために渡される私の体です」。
イエスは食事ののち、杯を取りました。
そして再び感謝と讃美を捧げ、
使徒たちに杯を与えて、仰せになりました。
「皆、これを取って、この杯から飲みなさい。
これは私の血の杯である。
新しい、永遠の契約の血である。それはあなた方が、
またすべての人々のために流される血である。

peccatorum.

Hoc facite in meam commemorationem.

D: Mysterium fidei.

A: Mortem tuam annuntiamus, Domine, et
tuam resurrectionem confitemur, donec
venias.

K: Memores igitur mortis et resurrectionis
eius, tibi, Domine,
panem vitae et calicem
salutis offerimus, gratias agentes quia
nos dignos habuisti astare coram te et
tibi ministrare.

Et supplices deprecamur ut Corporis et
Sanguinis Christi participes a Spiritu
Sancto congregamur in unum. Recordare,
Domine, Ecclesiae tuae toto orbe
diffusae, ut eam in caritate perficias una
cum Papa nostro Ioanne Paolo et
Episcopo nostro Ioanne Hermanno et
universo clero.

Memento famuli tui Wolfgangi Amadei
quem ad te ex hoc mundo vocasti.
Concede, ut qui complantatus fuit
similitudini mortis Filii tui, simul fiat et
resurrectionis ipsius.

Memento etiam fratrum nostrorum,
qui in spe resurrectionis dormierunt,
omniumque in tua miseratione
defunctorum, et eos in lumen vultus tui
admitte. Omnium nostrum, quaesumus,
miserere, ut cum beata Dei Genitrice
Virgine Maria, beatis Apostolis et
omnibus Sanctis, qui tibi a saeculo
placuerunt, aeternae vitae mereamur
esse consortes, et te laudemus et
glorificemus per Filium tuum Iesum
Christum.

そして罪は許されるであろう。

私を記念してこのように行ないなさい」。

一同：信仰の神秘を誉め讃えます。

会衆：キリストは死につき、キリストは天に
上げられました。そしてキリストは
再びこの地上に降りてこられるでしょう。

司祭：イエス・キリストの死と復活を記念して、
私たちはあなた、父にこの生気を与えるパンと
救いの杯を捧げます。

私たちは、私たちをあなたの霊の中に立つこと、
あなたに仕えるにふさわしい者と
見なして下さいを感謝いたします。

キリストの体と血とに与かる私たちすべての者は、
聖霊によって一つにされます。

主よ、世界を通してあなたの教会を
覚えて下さい。法王、司祭、そしてすべての聖職者
とともに、愛において成長することができますように。
私たちの兄弟ヴォルフガング・アマデウスを
憐れんで下さい。

あなたは彼をこの地上に呼ばわれました。
洗礼において彼はキリストとともに死にました。
彼もまた復活に与かることができますように。
再び蘇る希望の中の安楽に死せる私たちの
兄弟姉妹を憐れんで下さい。
彼らを導き、あなたの霊の光の中に
皆が行くことができますように。
私たちすべてに憐れみをおかけ下さい。
私たちが神の母、処女マリアと使徒たち、
そしていつの時代においてもあなたの御旨を
行なったすべての聖徒たちとともに、
永遠の命に与かることができますように。
彼らとともにあなたを讃美し、
あなたの御子イエス・キリストの
御名によって栄光がありますようにと
お祈りいたします。
キリストによって、
キリストとともに、

Per ipsum, et cum ipso et in ipso, est tibi
Deo Patri omnipotenti, in unitate Spiritus
Sancti, omnis honor et gloria per omnis
saecula saeculorum.

A: Amen.

16 Vaterunser — Ecce Agnus

K: Praeceptis salutaribus moniti, et divina
institutione formati, audemus dicere:
A: Pater noster, qui es in caelis:
sanctificetur nomen tuum;
adveniat regnum tuum;
fiat voluntas tua, sicut in caelo et in terra:
Panem nostrum cotidianum da nobis
hodie; et dimitte nobis debita nostra,
sicut et nos dimittimus debitoribus
nostris; et ne nos inducas
in tentationem;
sed libera nos a malo.
K: Libera nos, quaesumus, Domine, ab
omnibus malis, da propitius pacem in
diebus nostris,
ut, ope misericordiae tuae adiuti,
et a peccato simus semper liberi
et ab omni perturbatione securi:
expectantes beatam spem et adventum
Salvatoris nostri Iesu Christi.
A: Quia tuum est regnum, et potestas, et
gloria, in saecula.
K: Domine Iesu Christi,
qui dixisti Apostolis tuis:
Pacem relinquo vobis, pacem meam
do vobis: ne respicias peccata nostra, sed
fidem Ecclesiae tuae; eamque secundum
voluntatem tuam pacificare et coadunare
digneris. Qui vivis et regnas in saecula
saeculorum.

キリストのうちに、聖霊との交わりの中で、
全能の神、父であるあなたに、
すべての誉れと栄光は
世々に至るまで。
会衆：アーメン

16 主の祈り

司祭：私たちの救い主がお与え下さった言葉で、
父に確信をもってお祈りを捧げます。
会衆：天にましますわれらの父よ、
願わくば御名の尊まれんことを。
御国の来たらんことを。
御旨の天に行なわれるごとく、
地にも行なわれんことを。
われらの日用の糧を、今日われらに与えたまえ。
われらが人を救うごとく、
われらの罪を許したまえ。
われらを試みに引きたまわされ、
われらを悪より救いたまえ。
司祭：主よ、私たちを悪から救って下さい。
私たちの目に私たちに平和を与えて下さい。
あなたの憐れみのうちに、
罪から自由にして下さい。
私たちの救い主、イエス・キリストが来られる
喜ばしき望みのうちに、
私たちが待つ時、
すべての心配から救って下さい。
会衆：国と力と栄光は、
限りなくあなたのもの。
司祭：主イエス・キリスト、
あなたはあなたの使徒たちに仰せになりました。
「私は平和をあなたがたに残し、
私の平和をあなたがたに与える。
自分たちの罪にではなく、
あなたの教会の信仰を顧みなさい」。
私たちに平和と、あなたが永遠に生きたもう
あなたの御国との一致を私たちに授けて下さい。

A: Amen.
K: Pax Domini sit semper vobiscum.
A: Et cum spiritu tuo.
D: Offerte vobis pacem.
K: Ecce Agnus Dei, qui tollis peccata mundi.
Beati, qui a caenam Domini vocati sunt.
A: Domine, non sum dignus, ut intres sub
tectum meum, sed tantum dic verbum,
et sanabitur anima mea.

17 Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
dona eis requiem.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
dona eis requiem sempiternam.

18 Communio

Lux aeterna luceat eis, Domine,
cum sanctis tuis in aeternum,
quia pius es.
Requiem aeternam dona eis, Domine:
et lux perpetua luceat eis,
cum sanctis tuis in aeternum,
quia pius es.

会衆：アーメン。
司祭：主の平和がいつも皆さんとともに。
会衆：また司教とともに。
一同：平和の挨拶を交わしましょう。
司祭：これは、この世から罪を取り除く
神の小羊です。
会衆：主よ、私はあなたを迎えるに
ふさわしくありませんが、ただ一言、
私は健全ですと述べてさせていただきます。

17 アニウス・デイ

世の罪を除きたもう神の小羊よ、
彼らに安息を与えたまえ。
世の罪を除きたもう神の小羊よ、
彼らに永遠の安息を与えたまえ。

18 聖体拝領唱

主よ、永遠の光にて彼らを照らしたまえ、
あなたの聖者たちとともに永遠に、
あなたは善なのだから。
主よ、彼らに永遠の安息を与えたまえ、
永遠の光にて彼らを照らしたまえ、
あなたの聖者たちとともに永遠に、
あなたは善なのだから。